

-学会開催報告-

第26回看護人間工学部会総会・研究発表会

第26回看護人間工学部会総会・研究発表会 開催報告

開催日：2018年10月27日（土）

開催場所：武庫川女子大学看護科学館

徳重 あつ子

（武庫川女子大学看護学部教授・学術集会大会長）

特別企画 リレー講演『看護人間工学分野の将来展望』

「看護人間工学 昔と今」

野呂 影勇（早稲田大学名誉教授・エルゴシーティング株式会社

代表取締役・工学博士）

「看護技術の定量化・客観化・質的データへの思いについて」

小川 鑛一（元東京電機大学教授・工学博士）

「学会への旅支度」

山崎 信寿（慶應義塾大学名誉教授・工学博士）

教育講演「色彩と看護」

阿曾 洋子（武庫川女子大学看護学部 学部長）

「新しい学会に対する熱い思い」《サプライズ企画》

平田 雅子（元神戸市看護大学短期大学教授・理学博士）

一般演題 12題

1. 看護人間工学部会とは

台風到来が危ぶまれる中、無事に10月27日(土)に看護科学館にて、学会を開催することができました。北海道や宮崎県からお越しになる方がおられたので、交通網の乱れが一番の気がかりでした。学会開催日の2週間ほど前からは、毎日天気の詳細を念入りに確認して、祈る思いでございました。

看護人間工学部会は、日本人間工学会の部会として1982年に設立されています。その前身の勉強会であった時代も含めると、歴史のある学会です。



看護科学館前の看板

Nursing Ergonomics 2018 一般社団法人
日本人間工学会
Japan Ergonomics Society

日本人間工学会・看護人間工学部会
**第26回 看護人間工学部会
総会・研究発表会**

会期: 平成30年10月27日(土) 10:00~17:00 (9:30受付開始)
会場: 武庫川女子大学 看護学部 <http://www.mukogawa-u.ac.jp/>
〒663-8558 兵庫県西宮市池間町6番46号 看護科学館
アクセス: 阪神電車鳴尾(武庫川女子大前)駅から徒歩約3分
阪神電車武庫川駅から徒歩約14分

特別企画
《リレー講演》「看護人間工学分野の将来展望」
小川鑛一先生(元東京電機大学理工学部教授)
野呂影勇先生(早稲田大学名誉教授、
エルゴシーティング株式会社代表取締役)
山崎信寿先生(慶應義塾大学名誉教授)

《特別講演》「色彩と看護」
阿曾洋子先生(武庫川女子大学看護学部 学部長)

一般演題申込
平成30年8月8日(水)~9月17日(月)
参加申込期限 10月13日(土)

参加費
看護人間工学部会会員: 1,500円
非会員: 2,000円 学生: 500円

詳細は後日部会のホームページ等でご案内 <http://www.n-ergonomics.jp/>
【お問い合わせ】武庫川女子大学看護学部 徳重 あつ子
TEL&FAX: 0798-39-9012(直通) Mail: tokusige@mukogawa-u.ac.jp

学会ポスター

人間工学とは、人間に優しい技術、使いやすい機器、人間の能力にふさわしい用具・技術・環境の条件を研究し、より安全な製品の開発、快適な職場や住まい、高齢者に優しい環境、使いやすい情報機器、ストレス対策に役立てようとする学問領域(看護人間工学部会ホームページより)であり、その中で看護人間工学部会は、看護の視点からとらえた人間工学の研究を扱う役割を担ってきました。このような経緯から、会員108名(2018年10月現在)と小規模ではありますが、看護学分野のみならず、工学分野をはじめとした様々な分野の研究者が所属しているユニークな学会です。その学会の大会長をさせていただくのは大変に名誉であり、プレッシャーもありましたが、とても嬉しくありがたいことでした。

2. 最後の学術集会として

このように看護学と工学の融合分野の研究を取り扱う先駆的な存在として歩み続けてきた「看護人間工学部会」でしたが、日本人間工学会から独立することとなり、この第26回が看護人間工学部会としては最後の学術集会となることになりました。大会長をお引き受けした後のことでした。

このため、最後を飾るにふさわしい会にしたいと考え、学内の実行委員の宮嶋正子先生、片山恵先生、岩崎幸恵先生、田丸朋子先生、顧問の阿曾洋子先生とご相談しながら、大慌てで企画を考えました。最終的には、学会立ち上げと運営に貢献された3名の工学系の先生方を特別講演の講師としてお招きした大変豪華なプログラムとなりました。講師である野呂影勇先生、小川鑛一先生、山崎信寿先生は、大活躍されている先生方ばかりですが、企画をお伝えして『看護人間工学分野の将来展望』という内容での講演依頼をさせていただいたところ、ご快諾下さいましたことが、本当にありがたかったです。先生方の講演は、今後の新しい学会立ち上げに向けて多くのご示唆に富んだ内容で、この学会を本当に大切に下さっていることが伝わってきて感動いたしました。

また、特別講演として物理学者の平田雅子先生

にもお越しいただき、看護と物理学のお話から、新しい学会に向けてのエールをいただきました。平田先生の講演は、学会ホームページにも載せずに当日参加者へのサプライズとして企画いたしましたところ、この学会らしい企画であると、これもご快諾をいただき実現いたしました。平田先生も学会の立ち上げの頃にかかわられたとお聞きしております。



学会発表の様子 (N-101 教室)

今回、特別企画で工学系の先生方3名に講演の依頼をさせていただきながら、看護学分野からは、やはり阿曾洋子先生にお話をいただきたいと考えておりました。阿曾先生は学会立ち上げの頃から、これまでずっと学会をリードしてこられ、私も含めて多くの門下生が「看護人間工学」の魅力に触れる機会を与えて下さいました。私自身にとっては、研究活動のアイデンティティのひとつともなっております。阿曾先生には「色彩と看護」というテーマでお話をいただきました。看護科学館に取り入れた色彩についてのお話もあり、看護の中に色を取り入れることについて多くのご示唆をいただきました。

企業展示では、「有限会社 インザライフ社」「東洋羽毛関西販売株式会社」の2社にご協力をいただきました。インザライフ社様からは、野呂影勇先生が開発された人間工学に基づいた骨盤クッションや呼吸枕等、東洋羽毛様からは整形外科医が開発した枕等の展示があり、多くの参加者が高い関心を寄せていました。

昼食は「菜色健美(2009年の食博覧会大阪に出展した際に高評価を受けた本学の学生が考えたお弁当)」を手配し、参加者からは大好評でした。

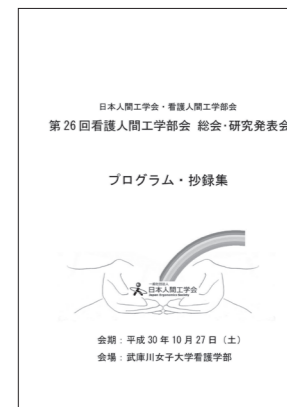
3. 学会のあらたな旅立ち

当日の参加者は、82名(事前登録者74名、当日登録者8名)でした。内訳は学会員49名、非会員15名、学生18名であり、全学会員108名という規模から考えると、大盛況という状況でした。スケジュールの調整ができたからということで、当日参加をして下さる方もありました。これも、学会の最後の学術集会ということと、講師の先生方のご協力により充実したプログラムを組むことができたおかげであると考えています。

2019年4月に「看護人間工学部会」の流れを引き継いだ、新学会が発足する予定です。これまで親しんだ学会がなくなってしまうのは大変さびしく、後ろ髪引かれる思いで閉会の言葉を述べさせていただきましたが、新学会の設立に向けて準備が進んでいるようですので、その誕生を楽しみにしたいと思います。今回の学術集会には、非会員の方や学生さんも参加して下さいましたので、その方々がこの分野に興味を持って下さり、新学会に入会して下さいることを期待しています。また、この記事を読まれた方が少しでも興味を持っていただければ大変ありがたいです。

4. おわりに

学術集会にご協力いただきました講師の先生方、本学内外の実行委員の先生方、本学の大学院生、学部生の方々、皆様のおかげで無事に終えることができました。至らぬ点ばかりであったかと思いますが、この場をお借りしまして心より御礼を申し上げます。



学会プログラム・抄録集